



立教中高同窓会

会報 No.17
2023年5月発行



ご挨拶と総会へのお誘い

立教中学校・高等学校同窓会 会長 麻田恭一



はじめまして。私は昨年の6月に小林芳夫さんの後を承けて会長職を仰せつかりました1972年卒の麻田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

立教中高同窓会は2021年に設立70周年を迎えました。残念ながらコロナ状況により、計画していた記念礼拝も祝賀会も中止となり、記念行事としては記念誌制作だけとなりました。1年遅れの完成となりましたが、その編集作業を通じて同窓会の存在意義を再確認することができたのは収穫でした。編集後記にはこう書かれています。

歴史意識の塊のような立教学院のなかで、同窓会の記録だけは不思議なほど残っていませんでした。(中略)学校側が同窓会の立て直しを考え始めたのは1990年代後半からです。これはちょうど立教学院が連携一貫教育を打ち出し始めた時期と符号しており、具体的には、キャンパスを異にする中学校と高校が、それぞれの地で中学校と高校を併設する中高一貫校となったことが背景にあります。大きな枠組みでいえば、立教学院が戦後半世紀を経て大きな「改革」に動き始めたなかで、ようやく同窓会の重要性に気がついたということでしょうか。…

ウィリアムズ主教によって建てられた立教の理念は、1874年に生徒5人で始まった「立教学校」から不変です。この混沌とした時代にあって、同窓会はしっかりとこの理念を伝える一翼を担い続けたいと思います。

今年は4年ぶりの同窓会です。懇親会は万全を期して来年の楽しみとしましたが、感謝礼拝と総会も行われます。104年前に献堂された池袋のチャペルで、149年前の創立の息吹に触れてみてはいかがでしょうか。

立教池袋中学校・高等学校 躍進する鉄道研究部と「学校教育のいま」

鉄道研究部

2020年の創部から躍進を続ける鉄道研究部。2013年ある一人の生徒を中心とした有志の愛好会から7年の時を経て念願の鉄道研究部に昇格。2022年には全国160あまりの高等学校が出品する全国高等学校鉄道模型コンテストで見事ベストクリエイティブ賞を受賞しました。その背景と活動を先生と学生に聞いてみました。

顧問 安原 章先生
部長 川澄 優太さん(高校3年生=2023年4月現在)

鉄道研究部の成り立ちとは？

安原:男子校というもあり、鉄道好きは存在していましたが、それを束ねる部がありませんでした。そんな中2013年、当時高校3年生の津久井さんが中心となり愛好会という形で有志を集め、鉄道を軸にした展示をR.I.F.(文化祭)で行い、とても好評だったというのが全ての始まりです。その後、私の英語の授業中に世界の鉄道のアナウンスを英語で真似ていたことから鉄道好きなのが生徒にバレてしまい、顧問を頼まれ、快諾しました。愛好会から同好会の時期を経て、2020年には晴れて鉄道研究部に昇格することが出来ました。

川澄さんが鉄道研究部に入ろうと思ったキッカケは？

川澄:男の子には幼い頃に誰しも通る道が3つあると思うのですが(トミカ、新幹線、恐竜)その中で特に鉄道に魅力を感じるようになり、シンガポールに4年ほど住んでいた頃から路線図を見ながららみつぶしに鉄道に乗ることが好きな、いわゆる乗り鉄でした。

部の活動内容は？

川澄:模型づくりと学外での活動がメインで週1回土曜日に集まり定例会で情報共有をしています。基本的には自由な部で普段は部員どうして鉄道の写真撮影や旅行に行っています。模型は夏休みに毎日8時間位根を詰めて製作しています。コロナ禍前には立教大学の鉄研サークル主催の鉄道研究サミット(9月)に招待され活動を発表したこともあります。

参加160校の中からベストクリエイティブ賞を受賞した要因は？

川澄:テーマ設定で今年は「海」と決定してから皆でモデル駅を色々と探中で、最終的に駅のすぐ目の前に海が広がる山口県の大島駅を探せたのが大きかったです。模型の構成としては瀬戸内海の綺麗な海を効果的に再現しながら反対側には国鉄時代からのレトロな駅舎や踏切があり360度どこから見ても楽しめるといった全方位への工夫が良かったと思います。また、思い切って橋を途中で切るといった大胆な仕掛けも目を引いたと思います。

安原:各部員が日頃から様々な場所に赴き、写真撮影をしながら現地の様子を肌で感じることで初めて可能になる「つぶさな観察の蓄積」が、模型製作時のディティールの一つひとつに精巧に再現されていると思います。

部活動で大変なことや楽しいことは？

川澄:部長として、我が強くて自己主張の強い部員達を束ねるのは中々難しく大変なのですが、部員全員の意見を吸収し咀嚼して、一つのアイデアとして形に出来るように心がけています。そんなとがった仲間達と一緒に自分達それぞれの趣味趣向を目に見える形で表現し、ディティールへのこだわりを議論しながらとことんまで突き詰め、一つの模型をつくりあげる作業は本当に楽しいことです。

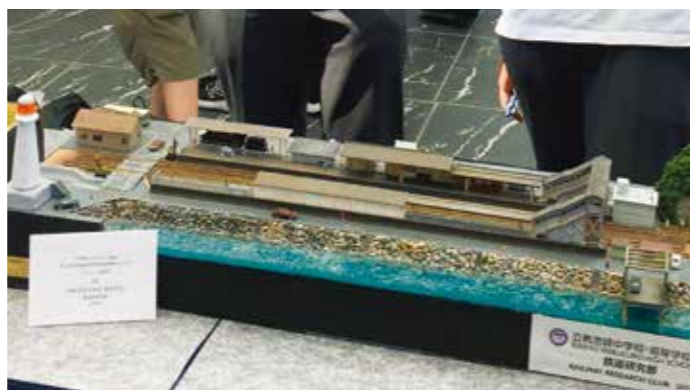


顧問の先生として嬉しいことは？

安原:生徒達が生き生きと部活動を楽しんでくれているのが一番ですが、同時に日々の生活に「鉄分」が入っているのをとても嬉しく感じています。生徒達をとりまく世の中は変化が速く、急激に価値観が変わっていきませんが、そんな中でも「鉄道」といった定点となる趣味を持ち、同じ目線で語れる仲間が居ることで自身の精神状態も落ち着ける休息の場、まさに癒しと幸せの両方を与え、心豊かな生活を送るための中核に「鉄研」が存在することが何ものにも代えがたい喜びです。

部員数(2023年3月7日現在)	
高校 3年 3名 2年 2名 1年 1名	6名
中学 3年 3名 2年 4名 1年 2名	9名
	合計15名

全国高等学校鉄道模型コンテスト	モジュール部門	受賞歴
2014	都電面影橋いまむかし	理事長特別賞
2015	ヤンゴン中央駅	理事長特別賞
2016	ロンドンウォーターlooー駅界隈	参加賞
2017	伊豆熱川駅	ベストクリエイティブ賞
2018	わたらせ渓谷鉄道 水沼駅	加藤祐治賞
2019	琴電琴平駅	理事長特別賞・ベストライター賞
2020	城崎温泉駅周辺	優秀賞・ベストムービー賞・ベストリアル情景賞
2021	面白山高原駅	ベストムービー賞・ベストクリエイティブ賞
2022	海を臨む大島駅	ベストクリエイティブ賞



「海を臨む大島駅」 2022年 ベストクリエイティブ賞

英語Sクラス (Special Advanced Class)

～持ち前の英語力の維持・向上～

英語科 安原 章先生



英語Sクラスとは、どのようなクラスですか？

中学校の英語クラスで通常使われる教科書の代わりに、ネイティブ教員が独自教材などを用いて教えます。海外経験などによりすでに一定の英語力を持つ生徒を対象に行う授業です。

年度によって上下しますが、大体1学年10～15名程度で週7時間のうち3時間を別教室で授業を受けるというものです。

英語Sクラスが出来た背景は？

近年立教学院として英語教育にとても力を入れている中、本校では立教大学推薦の要件として英検2級程度の英語力を証明できているので、全員最低2級以上までは取るようにしており、更に学年全体の約20%の生徒が自主的に準1級・1級を取得しています。90年代までの中学校のシステムでは海外からの帰国生や英検上位級を持っている生徒であっても通常の授業を受けて、皆と一緒にABCの学習から始めなければなりません。英語の文法や語彙の意識的な学習、復唱とは異なり、帰国生は自然に身につけていることが多く、意識的に英語に触れるという環境を維持しない限り英語力は自然に「摩耗」していき、せっかく英語力が高く資質のある生徒を入学させても、十分な教育を提供するどころか卒業する時には低減させてしまっているのではないかと。

そもそも帰国生が身につけてきた英語学習の在り方と、一般の生徒が文法などを通して人為的に第2言語習得として身につけた英語学習の在り方は違うのではないかと。それをしっかりと教育の現場で理解して落とし込んでいくのも大事ではないかと。ということが英語科内で長年話し合われてきました。それを受けて90年代の半ばに英語特化型の「Sクラス」を設けることになりました。

Sクラスに入るには？

中学校への入学予定者の登校日に希望者に対してSクラスでやっていけるだけの資質と能力があるのかどうかを、筆記テストとネイティブ教員とのインタビューで判断をしています。インタビューでは、時事関係などの文章を読んでそれを単に和訳するのではなく、その内容について自分の考えや感想を英語で述べてもらい、授業では語彙習得に留まらず、自分の意見を発信してもらうようにしています。

Sクラスの効果は？

帰国生には、英語で考えて英語で意見を言えるような疑似的な英語環境を日本に居ながらつくっており、改めて英語を勉強するというよりはプレゼン動画の作成等日々の活動で英語を使っていくという流れが出来ており、クラスの中では生徒同士の切磋琢磨にも繋がるなど、摩耗を防ぎ、さらに磨きかける効果は出ています。

また、副次的な効果として、同世代で英語でコミュニケーションをとれる生徒がロールモデルとして身近に居るのは一般の生徒にとっては大きい刺激になっています。

Sクラスに限らず、一般の授業でもアメリカ英語の音の崩れなどを観察させ、映画などの音源とともに聴き取り、話すといった練習を授業に取り入れています。例えば、英語の映画のある一部分の特に音声の部分を何度も覚えるくらいまで聞かせ、口で言えるまで復習させる授業もあります。

男子生なので好奇心に火が付くと、どんだのめりこんでいく生徒が多く、そのような授業を日常的に行っていることで英検でのリスニングも大分楽に聞けるようになっているようです。

キャリア学習

～大人の生きざまを学ぶ～

数学科 酒井 一哉先生



キャリア学習とは、どのようなものですか？

将来、社会人・職業人として社会で生きていくための基礎的な態度と力を発達させることを目的としたプログラムで、5月に1週間通常の授業を行わずに実施されます。

職業体験ではなく色々な社会人に接し、その人達の「生きざま」を直接聞くことで、ライフデザインとしてキャリアをとらえ、自分の人生を考えるきっかけになっています。

具体的には、どのように進めているのですか？

高校1年生の4月に行われるオリエンテーションのあと、業種アンケートを実施し事前学習として、自分が興味ある職業(業種・職種)などについて調べます。以前はIT企業でしたが最近は弁護士や会計士、昨年は起業家など、会社を立ち上げた人への関心が高まっています。インタビューの前には、立教大学のインタビュー方法論を研究されている先生の講義を受け、単純なインタビューだけでなく学術的なインタビューを方法論として学んでから、希望の業種ごとにグループを作り、その職業に就いている方々にインタビューを行います。インタビュー内容をまとめ、ポスターセッションや訪問先から与えられた課題への提案などプレゼンテーションを行い、企業の方にもオンラインで聞いてもらっています。

このプログラムを通して生徒の成長を実感したことは？

高校3年生のリーダーシッププログラムでは、初めての試みとして以前授業を受けて今大学1年生になる生徒をサポートとして各班についてもらいました。その際、その大学1年生が話していたのは「僕たち内部生は、中高と日常的にプレゼンテーションやコミュニケーション能力を磨くことをやってきたのでアイデア出しや、レポートの作成、要約では圧倒的に受験で外部から入学した人達よりも僕らの方が優れていて負けていなかった。ただし、通常の筆記試験では負けてしまうが、..」と自信を持って話していました。やはり、受験中に一人で黙々と勉強している時間を、そうでない部分に集中して費やせる一貫校のメリットは大きいと改めて感じています。

生徒に期待することは？

これからの時代もそうですが、1人で出来ることは限られています。インプットよりアウトプットをすることで色々な人とつながって、協業しながら様々な問題を解決していく力が求められています。

私は、常日頃から立教の学生達はリーダーになる子達だと思っています。企業にいても人を動かす立場になるので、色々な人を理解しないと行かない、そのためにはしっかりと土台となる詰め込みの知識があったうえで幅広く色々な知識を身につけておかないと、そういう人達と会話できないと言っています。例えば、アイドルの握手会に多くの人が並んでいる写真を例にあげて、あなた達はこのメンバーと一緒に並ぶ側ではなく、並ばせる側になりなさい、どうやってこういう仕組みをつくったらいいかを考えるのがあなた達の役目です、並んでいるのは違うと言い、あなた達には「エリート教育」を行っていると言っています。



ポスターセッション・プレゼンテーションの実施

立教新座中学校・高等学校 躍動するフェンシング部特集

2021年インターハイ優勝、2022年インターハイベスト8と近年活躍が目覚ましいフェンシング部。かつてはインターハイ優勝者や国体優勝者を輩出するなど、全国でも強豪校として知られていた立教高校フェンシング部でしたが、35年ほど前から県内強豪校が台頭し全国大会出場から遠ざかる時期が長く続いていました。そのような状況の中、2021年にインターハイ優勝を果たし、見事な復活を遂げたフェンシング部。その躍進の背景を学生たちに聞いてみました。(学年は取材時)

顧問 中村 聡先生
 高校キャプテン・フルーレリーダー 橋本雄偉さん(高校2年生)
 サーブルリーダー 小林寛太郎さん(高校2年生)
 エペリーダー 石黒碁大さん(高校2年生)
 中学キャプテン 細川航平さん(中学2年生)
 中学副キャプテン 野田旺佑さん(中学2年生)

フェンシングとは、どのような競技か？

橋本：フェンシングにはフルーレ、エペ、サーブルという3種目があります。フルーレは上半身のうち胴の部分が有効面となっていて、攻撃権を奪い合いながら相手より先に剣の先で相手の有効面を突く競技です。攻撃権を奪い合う攻防の駆け引きが面白いところです。

小林：サーブルは頭を含めた上半身が有効面となっています。フルーレやエペと剣の形が違って、突くのではなく斬る動作となります。すべての種目の中で一番スピード感があります。

石黒：エペは頭から足まで全身が有効面となっていて、フルーレやサーブルと違って攻撃権がありません。とにかく相手より先に突くための駆け引きが魅力です。

一昨年インターハイ優勝しましたが、昔から強豪校だったのですか

橋本：いえ、私の知る限りではここ数年で強くなったと思います。外部からコーチに教えにきてもらっているので全体のレベルが上がっているのだと思います。

中村先生：外部のコーチが来るようになったのが2000年からです。そこから少しずつ力を付けて行きました。

ここ数年グッと力が上がったと思いますが、この背景には何があったのですか

橋本：特に今の大学1年生が強かったです。みなさん小学校や中学校からの経験者で、しかも全員強かった。この先輩たちが引っ張ってくれたおかげです。

中学から一緒に練習できる環境は大きい

野田：動きや感覚、知識を養うために、中学3年間の経験はやっぱり

り大きいです。

細川：レベルの高い高校の先輩たちと一緒に練習できるのも、自分のレベルアップに大きく繋がっています。中学から部活があるということで小学校からの経験者も入部してくるし、高校の先輩からもアドバイスを受けられる。フェンシング部のベースが強くなっていると思います。

高校ではみんな経験者なのですか

橋本：いえ半分は高校からの入部です。

経験者とのハンデは感じなかったか

石黒：最初はキツかったです。でもコーチや先輩たちの親切な指導で半年ぐらい経った時にはもう大丈夫でした。

インターハイ優勝で何か変わったか

野田：最高学年が優勝したことで自分たちも頑張ろうと思いました。優勝を目の前で見て自分たちもこうなりたいとモチベーションが上がりました。

橋本：自分たちもインターハイ団体で優勝が目標になりました。

部活の雰囲気は？上下関係は厳しいの？

細川：先輩には敬語は使っていますが、上下関係は厳しくありません。

野田：むしろアドバイスをたくさんくれるので、すごく感謝しています。

橋本：アットホームな感じなので、上下の交流が取りやすくなっています。下級生や中学生にもアドバイスもしやすいしチームワークも上がってきているので、チームのレベルが上がってきた要因かとも思います。

どんなチーム(部活)にしたいか

橋本：みんなで声掛けし、切磋琢磨しながら強くなるチームにしたいです。

キャプテンの話を聞いてどう思いますか

野田：先輩たちや部活の将来のことを気にしてくださっているので、本当に尊敬します。

先輩は憧れの存在ですか

細川：結果をきちんと残していて、自分と比べて数字的にも精神面でも凄さを感じます。

フェンシング部に入ってどうでしたか

石黒：高校からの入部でマイナースポーツは初めてでした。マイナースポーツの世界だからこそその仲間意識が生まれます。



他校の人とも仲良くなりやすい。人数が少ないから成績を残しやすいのも良かったです。

小林：中学はサッカーをやっていましたが、高校からフェンシングを始めました。新しいことにチャレンジできた経験がまず良かったです。県外の試合や全国大会など遠征があり活動の場が広がったことも良い経験です。

橋本：小学校からフェンシングをしていましたが、部活でやるのは同級生や先輩後輩などたくさんの仲間とチームとして競技ができるので、フェンシングがもっと楽しくなりました。

野田：フェンシングは完全に個人技なので自分の実力がはっきり分かる。自分のミスは自分でしか取り返せない。すべて自分に掛かっているところが面白いです。

細川：小学校の時は何もスポーツをしていなかった。メジャーなスポーツを始めるのは経験者との差が大きかったので、中学から始められるスポーツとしてフェンシングを選びました。新しいことに挑戦する気持ちを起こさせてくれたのが自分にとって大きかったです。

部活を通して学生たちに何を学んでもらいたいことは

中村先生：部活は世の中を疑似体験できる場でもあるので、社会に出る前のタイミングで挨拶であるとかモノの考え方などを基本的なことを学んで欲しい。あと『生きる力』を身につけて欲しい。『自分で考えて行動する』という習慣を身に付けてもらいたい。結果が伴うに越したことはないが、強ければ良いという訳では決してない。それ以前に人としてちゃんとあって欲しいです。

主な戦績

2021年度

関東高校大会フルーレ団体優勝、フルーレ個人1~3位・7位

インターハイフルーレ団体優勝、フルーレ個人3位、エペ個人3位
 全日本選手権フルーレ団体ベスト8
 JOCジュニアオリンピックカップ大会カデ男子サーブル2位(カデ=アンダー17)
 世界カデ選手権男子サーブル出場

2022年度

関東大会フルーレ個人3位
 インターハイフルーレ団体ベスト8、フルーレ個人7位、サーブル個人7位
 関東選抜大会サーブル団体2位、全国選抜大会ベスト16
 JOCジュニアオリンピックカップ大会カデ男子サーブル3位
 アジアカデ選手権男子サーブル出場
 世界カデ選手権男子サーブル出場
 東日本少年大会中学生男子フルーレ6位
 西日本選手権カデ男子フルーレ2位

部員数(2023年3月20日現在)

高校	3年	5名	2年	5名	1年	16名
中学	3年	5名	2年	3名	1年	1名



古希

高校卒業50周年+古希記念同期会

3月18日、セントポールズ会館を会場に同期50人が高校卒業50周年に集まった。コロナで1年遅れたことで、期せずして「数えの古希」とも重なった。我々「66-72同期会」は、1966年中学入学、1972年高校卒業の期で、留年退学関係なく、中高で1年でも机を並べた者を全員同期とする。

卒業25年を機に結成され、数年ごとに何かしら理由をつけて開催してきた同期会だが、高校3年時11クラス550人中、現在物故者含めて連絡先判明者は約7割で、毎回100名近く出席する。しかし今回はコロナ明けの微妙な時期のため、幹事連の議論は「申込み先着50人限定」という控えめの企画に落ち着き、セントポールズ会館1階「松本楼」を会場とした。今回お呼びできた担任は、中学は金刺、西村、高校は横（最年長で今年90歳!）、渡辺の4先生。

故福澤（古木）チャプレンの「主の祈り」（録画）から始まった会は、久しぶりのクラス替えのような騒めきの中で、あっという間に2時間が過ぎていった。卒業以来初めて会う友もいた。

雨天のため、最後に大学のウィリアムズホールに移動して集合写真を撮影して解散。だれがせいとかせんせいか…。

2023年3月18日 K.A記



バスケ

バスケットボール部OB会

立教新座高等学校バスケットボール部OB会及び立教中学校バスケットボール部OB会は、昭和30年代に中学・高校卒業された先輩方の努力により、①同志社戦②合宿等の現役支援のもと設立し活動を行ってきました。その後学院の事業方針において、池袋に高等学校、新座に中学校が新設されました。

バスケOB会も組織変更により対応すべく昭和40年代中学・高校卒業メンバーで話し合いをスタートさせました。コロナの影響もあり令和1年9月2日に準備委員会（約15名）設置の話し合いがスタート。その後、新座校及び池袋校の先生方に趣旨説明、ご退職された顧問の先生にもご意見を伺って準備委員会の組織案を作りました。その後、令和2年2月15日（土）にOB親睦会と称して従来のOB会の方々にご参加（42名）いただきました。その折に準備委員会設置を承認頂き、令和4年11月19日（土）池袋・新座のOB会解散総会を開催（55名）し新OB会設立を承認頂きました。今後新OB会設立総会を開催いたします。中高同窓会の皆様でバスケットボール部に在籍されていた方々はどうぞご入会をお願いいたします。現在会則等準備作業を行っています。

立教中学高校バスケットボール部OB会（仮称）設立総会ご案内

1. 開催日時：令和5年7月8日（土）17時30分開会予定
2. 開催場所：『地球飯店4階』豊島区西池袋1-22-8 TEL03-3985-0684

お問い合わせ：昭和47年池袋中学卒、昭和50年新座高校卒 立教中高バスケットボール部OB会準備委員会
幹事 後上（ごがみ）090-2152-5593

文責：立教中高バスケOB準備委員会 委員長 堀居英治



応援団

立教高校応援団

2023年2月17日（金）、立教高等学校応援団のOB会を開催しました。応援団がなくなって30年以上たっているため、5人しか連絡が取れませんでした。これをきっかけに参加人数を増やしていきたいと思っております。

応援団出席の方は、下記に連絡ください。

幹事 関 ttqrj141@yahoo.co.jp



立教池袋 2022年度退職者・就任者・逝去者
退職者 該当者なし
就任者 村野 佳代（国語科）、野尻 拓（事務室）
逝去者 小澤 福夫（元社会科）、柴田 義孝（元英語科）

立教新座 2022年度退職者・就任者・逝去者
退職者 該当者なし
就任者 該当者なし
逝去者 ダビデ谷昌二（元チャプレン）